

平野区地域情報

にんにゃかひらの

※「にんにゃか」とはこの地方の方言で「にぎやか」という意味です。

第2弾

地域情報誌を区民リポーターが逆取材!!



このコーナーは、平野区の「魅力」や「住んでいても知らなかった!」と思える情報をお届けすることにより、地域住民の皆様へ、平野区のことをもっと知ってもらい、愛着を持って住み続けてもらえるまちにすることをめざしています。

今回は、平野区限定情報誌「ひらのの巻」の編集部を区民リポーターが逆取材して、取材活動や、町づくり活動に関わる視点から、発行者の大谷さん(株)文成堂 専務取締役)へ平野区的地域性と活動についての考え方などをお聞きしてきました。



区民リポーター(小林さん) ※以下「区民リポーター」

「ひらのの巻」はどのような趣旨で発行されているんですか?

編集部 大谷さん

小林さん、どこかでお見かけしたような…?さておき、固い表現をする、『中小企業の事業特性を活かした地元地域における役割』というテーマで活動しています。弊社は(株)文成堂という印刷会社として、企画、取材、デザイン、印刷などという業務特性を活かし、区民の皆さんに向けた平野情報の発信による「地域コミュニティの再生」に少しでもお役に立ちたいという想いで発行しています。



区民リポーター

情報発信によるコミュニティ再生とは、どういうことですか?

編集部 大谷さん

人間関係の希薄、地域の関わりの薄れがいわれる今日ですが、愛着というものは、その対象に対する《情報量》が大きく関わっています。反して、マスコミの情報の多くは、全国では東京、大阪ではキタやミナミなど、中心地の情報に偏りがちです。「100%平野」の情報をお伝えすることにより、少しでも皆さんにとっての我が町情報を知ってもらい、愛着をもってもらい、その中で様々な交流のキッカケに生まれればと思っています。



(株)文成堂 取材スタッフ 熊谷氏 ※取材写真より

区民リポーター

なるほど…。確かに、グランフロント大阪のスイーツは知ってますが、平野のスイーツはあまり知らないです(汗)

編集部 大谷さん

地元のお店や会社はチェーン店などと違い、大々的な宣伝も少なく、加えて職人さんは営業が苦手なものです。地域の支えや人の交流がなければ、地元のこだわり店や事業所がピンチとなり、それは町の魅力にも関わります。他方、社会問題をとっても、漠然として掴み難いものが、頭に「平野の」と付けることで目前に見えたりします。そういう意味で”区内限定”にこだわって発信しています。

区民リポーター

ご苦労はありますか?

編集部 大谷さん

平野情報についてはネタが多く、全く困りません。ただ、ビジネスではないので資金的な悩みは付き物です(苦笑)。多くの地元の皆さんに少しずつ支えていただきながら続けています。

区民リポーター

なるほど…そんな大谷さんから見て、平野はどんなところですか?

編集部 大谷さん

一言でいうと地域も人も”濃い”ですね(笑)。ただ、平野といっても5地区(平野・加美・喜連・瓜破・長吉)それぞれに特色があり、一概にはいえませんが、200万都市の大阪にありながら、“地方色”があり、地元意識が高い地域だと思います。平野から出る際、つい昭和の半ばまでは、「ちょっと大阪へ行ってくるわ」というセリフが多く聞かれたのも頷けます。その昔大阪で一番栄えた町といわれる平野郷に代表される我が町の意識が、町づくりにもっと活かされれば良いですね。



平野区オリジナルソングCD

(歌・演奏・作曲:熊谷氏(左写真) 作詞:黒田氏 (全興寺角の茶店「おもろ庵」店主))

区民リポーター

恥ずかしながら私はそんなに平野の歴史をよく知らないのですが、その歴史や地元意識をどのように町づくりに活かせば良いと思いますか?

編集部 大谷さん

平野生まれ平野育ちの私も、こういう活動を始めるまでは殆ど知りませんでした。この企画の第1弾で小村さんがお話されたように、平野が持つ凄い歴史を知ってもらおうキッカケを作っていくことも一つですね。私もよく、「東京の銀座やミナミの道頓堀は平野が作ったんですよ!」とか「だんじり祭りは300年、御田植神事は600年も続いているんですよ!」、「日本史上初の私塾は平野にあったんですよ〜」、「現存する連歌所は日本で平野だけです!」とふれ回ってます。地元意識については、成果も出ています。私に関わるイベントでは「産業交流フェア」がありますが、これも最たるものの一つです。

区民リポーター

産業交流フェアとはどういうイベントですか?

編集部 大谷さん

これも同じ方向性です。「地元こんな会社があったのか」をテーマに、地元にある会社や仕事を知ってもらうというイベントで、今年で9年目を迎えます。地元の産業会や工業会などの団体と平野区役所、商工会議所がタッグを組み、東住吉区と共に行っていますが、ここまで地元と行政と事業所が上手く協働を成立させている例は、大都市としては全国でも稀だと思います。これも平野が持つ懐の深さ、《自治都市のDNA》であると確信しています。

区民リポーター

やりますね〜平野区! 区役所としての役割についてはどう思いますか?



編集部 大谷さん

産業交流フェアの実行委員会はその仕事がイベントの実行に限られるため、「地域産業活性化委員会」という会が立ち上がりました。まだまだ手探りですが、地元産業における一つの間接組織となればとも思っています。産業のみならず、福祉、子育て、防災、防犯など、各カテゴリごとに中間組織を編成し、できればそれらが地域活動協議会と連携し、協働できる土壌が育てば、縦割りでない地域再編ができ、既存団体の活性化にもつながるのではないのでしょうか。その際に調整役を担えるのが地元行政の役割だと思います。なかなか現有の組織を再編するという事は難しいと思いますが、新たな参加者が集うことにも地元行政の特性を発揮していただき、過去の積み重ねも活かしながら、温故知新の心で進めてもらいたいです。

区民リポーター

上手くいくでしょうか。



編集部 大谷さん

下段左下へ

その際に重要になるのが「交流」です。ベースに交流があれば、縦割り、横割り、地域割り、様々な壁を取り払えます。少しの予算は必要ですが、《互いの》ちょっとした工夫、時間、アイデア、努力でまだまだできることは多いと思います。方法論やしぐみも大切ですが、それらの実行を支えるための「文化」や「気質」がここ平野にはあります。そんな地域特性を活かすためにも、区役所には、集い、交流できる機会作りにも期待しています。町づくりは人づくり!

区民リポーター

ありがとうございました。

編集部 大谷さん

あ…思い出しました!小林さんは今年の「あかる姫」ですね!

